

Solan Primary School

4th grade news letter

Venture

Fourth

2023. Jul. 31

大変な時に自分を支えてくれるものは

前号の続き、道徳授業の第二部を紹介します。

この本を中心に授業を作りました。

そして「ある問い」を、繰り返して聞きました。

子どもたちから出てきた答えです。

- 自分が打ち込める大好きなこと。
- 自分を信じる心。
- はげましの言葉。
- 友人。
- 家族。
- 人のことを思う気持ち。
- 誰かの役に立ちたいと思う気持ち。
- 仲間の笑顔。
- あきらめない心。
- 気持ちの持ち方。
- 同じ境遇の人のがんばり。

「ある問い」は、一言一句毎回同じです。

授業の冒頭で尋ね、授業の途中でも尋ね、授業の終わりにも尋ねました。

子どもたちの答えは、変わり続けました。

最初に浮かんできた答えだけが正解とは限りません。

むしろ、答えが一つではない問いには、あらゆる角度から多角的に考えられることの方が価値が高いです。

新時代を生きていく上でも非常に重要なスキルであることは間違いありま



せん。

さて、繰り返した「問い」とは一体何か。

中心発問は、次のフレーズにしました。

人生における「本当に大変な時」。

その時、自分を支えてくれるのは一体何でしょう？

授業の様子を紹介します。



中学校の部活の様子をもってきました。何のスポーツですか？

(バスケットボールです。)

みんなも今後、部活動や習い事を始める人もいるでしょう。

部活だけでなく、これから先、就職や結婚など、人生の色々な場面をみんなは経験していきます。

本当に大変な時

自分を支えてくれるのは？

そして人生は、順調に上手く進むことばかりではありません。

時には、心が折れてしまいそうになるほど大変なことが起きることがあります。

その時、自分を支えてくれるのは何だと思いますか？



田中正幸くん

今日、みんなと一緒に勉強する田中正幸くんです。

正幸君は、小さい頃からあるスポーツが大好きでした。



そのスポーツとは、バスケットボールです。

素早いドリブルと得意のスリーポイントシュートを武器に、正幸君はエースプレイヤーとして活躍を続けます。時には、1試合でチームがとった50点の内、33点を一人で取ったこともあります。



山梨県ナンバーワンプレイヤーとも呼ばれた正幸君は、地元の高校に進学します。もちろん部活はバスケット部。

入学式を迎える前から、すでに正幸君は高校生に交じって練習を行っていました。

そうして迎えた入学式の5日前。

悲劇は、突然起こります。



バスケットの練習中、正幸君は突然倒れました。

意識不明、救急車で病院に運ばれます。正幸君は、脳の血管の病気で、脳出血を起こしていました。

手術を行う時、正幸君の瞳孔はすでに開きかかっていたいました。生死の間際で行われた手術。倒れてから11日目、正幸君は奇跡的に意識を取り戻しました。

しかしお母さんに声をかけられても、言葉が出せません。「こういう時はなんて言うんだっけ？」脳出血のため、言葉が頭の中から上手く出てきません。そして右半身は麻痺したままでした。

お医者さんは、下手に希望を持たせてはいけないと思い、きっぱりと言いました。「もう、バスケットをすることはできません。」

**本当に大変な時
自分を支えてくれるのは？**

人生は、順調に上手く進むことばかりではありません。

時には、心が折れてしまいそうになるほど大変なことが起きることもあります。

その時、自分を支えてくれるのは何だと思いますか。

(家族)

(仲間)

(思い出)



正幸君の病室には、寄せ書きの書かれたバスケットボールが届きました。

お見舞いにも監督や友だちがたくさん来てくれました。

同じ病室では、正幸君と同じ病気で3歳から入院している子が、装具をつけてニコニコと笑っていました。



正幸君は、心の中で決めます。

「必ず、もう一度コートに戻る。」

辛い、リハビリが始まりました。

車いすから、歩くためのリハビリへ。

しばらく使っていなかった右足を付ける度、激痛が体を走り抜けます。



それでも正幸君はあきらめません。

コートに戻る日を夢見て、懸命にリハビリに取り組みました。

4か月後。

右半身に麻痺は残ったままですが、正幸君はなんと少しずつ歩けるようになってきました。それは、お医者さんが驚くほどのスピードでした。

半年後。

松葉杖をつきながら、ようやく一人で歩けるようになった正幸君。

病院を出てから、真っ先に向かった場所があります。

どこだと思えますか？

(体育館だと思えます。)



正幸くんが向かった先は体育館でした。

入院していた正幸君は、入学式には出ておらず、半年間の授業や部活動にも出ていません。

体育館では、バスケ部の仲間たちが元気に練習をしていました。

監督は正幸くんが来たことをとても喜びました。

一方、マヒが残る体でプレーすることはとても危険であり、試合に出ることは不可能であることも伝えました。

それでも、正幸君は毎日体育館に通いました。

なぜだと思いませんか。

(バスケが好きだから)

(みんなの応援をするため)



(実際の映像)「バスケが大好きだし、日川高校のバスケのために何か一つでも役立ちたいと思って」

全力で走ってプレーは出来なくても、仲間に声をかけ、後輩にアドバイスをし、一所懸命にバスケ部を支えました。

試合の時はメンバーに水を配り、コートの外から力いっぱい声援を送りました。

本当に大変な時

自分を支えてくれるのは？

人生は、順調に上手く進むことばかりではありません。

時には、心が折れてしまいそうになるほど大変なことが起きることもあります。

その時、自分を支えてくれるのは何だと思いませんか。



正幸君は3年生になりました。
 全国大会出場をかけた、現役最後の試合があります。この年、日川高校の前評判は「よくてベスト4」と言われていました。例年以上に強豪がそろっており、全国大会出場は厳しいだろうと予想されていたのです。

大会出場のメンバー発表の時。監督から、お話がありました。それは、「正幸を試合に出してやりたい」という話でした。ベンチに入ることでできる人数は決まっています。誰しもがそのメンバーに入ることを目指して、3年間練習を続けてきました。正幸君が入るということは、誰かがメンバーから外れるということです。

チームメイトはどんな反応だったと思いますか？

(賛成した！)

(考えて悩んだと思う。)

全員が、「賛成！」と言いました。

監督が話す前から、チームメイト同士でも同じ話をしていたそうです。

正幸君を試合に出してあげたいと思ったのは、なぜでしょう？

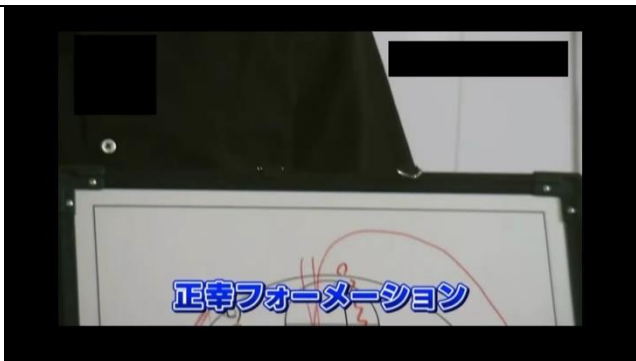


チームメイトも監督も、知っていました。毎日の練習の中、正幸君はシュート練習を続けていたのです。

右手は上がりません。

唯一上がる左手一本を使って、正幸君はシュート練習を続けてました。

元気に体が動いた頃感覚を頼りに、何千何万と打ってきたシュートを一日も欠かさずに練習していたのです。みんなが、その姿を見ていました。






チームメイトたちは、考えました。

「何としても正幸に一本シュートを決めさせてあげたい。」

そのための作戦を立てました。

正幸フォーメーションです。

味方がドリブルで切り込み、敵を惹きつける。そして正幸君からディ

	<p>フェンスを話したところで、優しく手渡してパス、そこからシュートを狙うというものです。</p>
	<p>実際の映像です。 (これさっきの！！) (最初に見た映像だ！) インターハイをかけた試合。 相手も必死で戦います。</p>
<p>「正幸に一本シュートを決めさせたい」そう考えていたチームメイトは序盤から飛ばしました。相手チームに大量得点差をつけます。正幸君を出すためにも、相手に大差をつけておかななくてはいけないことはすでにみんなで話し合っていました。</p> <p>そして残り 3 分 30 秒となった所で、ついに正幸君がコートに入りました。</p> <p>脳出血で倒れてから、3 年ぶりに立つコートでした。</p> <p>正幸フォーメーションは、成功するのでしょうか。</p>	
	<p>チームメイトがドリブルで切り込みます。</p> <p>相手ディフェンスを引きつけ、正幸君をフリーにしたところぐるりと反転。片手の正幸君が取れるように、そっと優しくボールを手渡しました。</p> <p>「打てーーーー！」</p> <p>チーム全員から大きな声があがります。正幸君のシュートは、静かにゴールに吸い込まれていきました。</p>
	<p>ベンチ全員が総立ちでした。</p> <p>飛び跳ね、喜びを爆発させます。</p> <p>実は正幸君、リハビリの時も、友だちがお見舞いに来た時も、一度も辛い顔を見せたことが無かったそうです。もちろん、涙も一回も見せたことはありません。</p> <p>でも、この時は違いました。</p>

試合後、人目もはばからず正幸君は泣きました。チームメイトも監督もみんな泣いていました。この試合で波に乗った日川高校は快進撃を続けました。並みいる強豪を倒し続け、この年見事全国大会出場を決めたのです。

「あの日」から僕の人生は変わったんです。自信がついたし、心の底から人に感謝できるようになった。人は人に支えられてるんだって。あの日の出来事は、ぼくがまわりの人に支えられて生かされていることを忘れないために神様が僕にくれた贈り物だって思います。



人生における「本当に大変な時」
その時、自分を支えてくれるのは？

この日の出来事は、後に本になりました。

その中で、正幸君は、倒れた日のことを次のように回想しています。
(左の文章を読み聞かせました。)

人生は、順調に上手く進むことばかりではありません。

時には、心が折れてしまいそうになるほど大変なことが起きることもあります。

もう一度聞きます。その時、自分を支えてくれるのは何だと思いますか。

二本立ての内容がぎゅっと詰まった道徳授業でしたが、子どもたちは一度も集中を切らすことなく、真剣に、そして深く考えている様子が見受けられました。

そして、何人かの子たちは、授業後に私の所に来ていました。

「この授業をしてくれて、ありがとうございます。」

心震える場面があったということなのか、最近道徳の授業の後にお礼を伝えにくる子が増えてきました。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

